

令和4年度第3回四街道市総合計画審議会

会議次第

日 時：令和5年2月16日（木）
14：00～

場 所：四街道市役所
保健センター3階大会議室

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 会議の公開・非公開

4. 議 題

(1) 新たな四街道市総合計画基本構想骨子（案）について

(2) その他

5. 閉 会

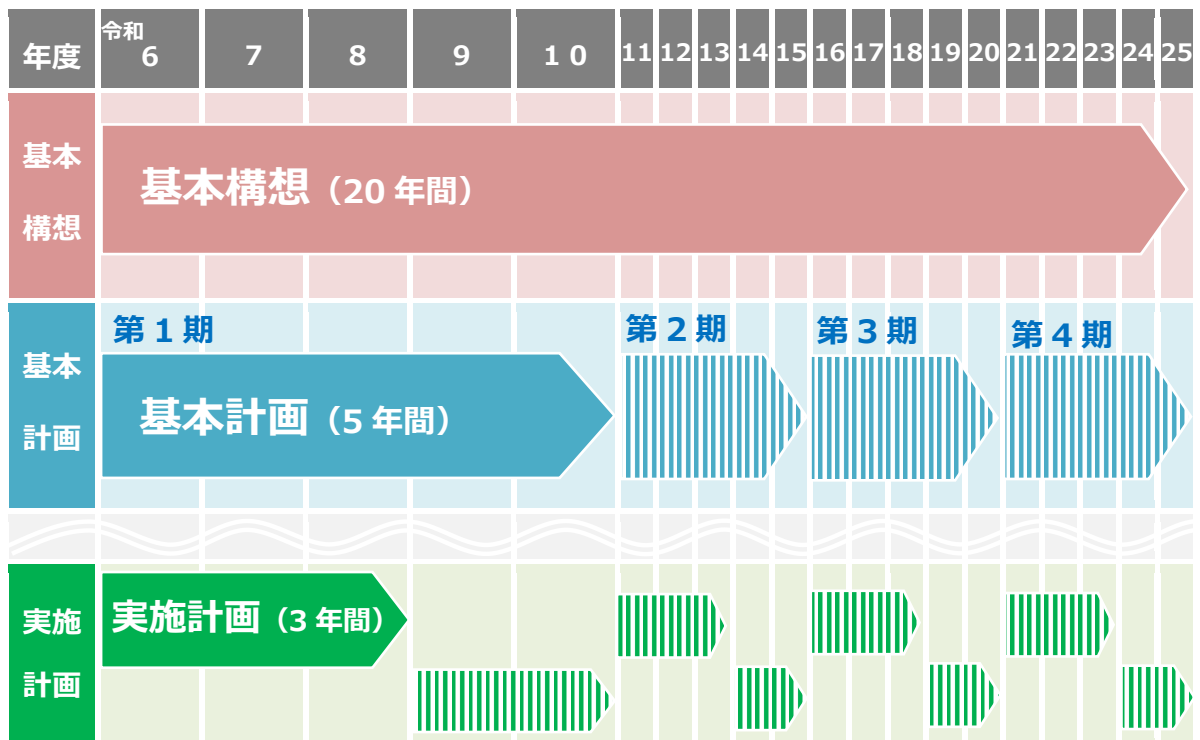
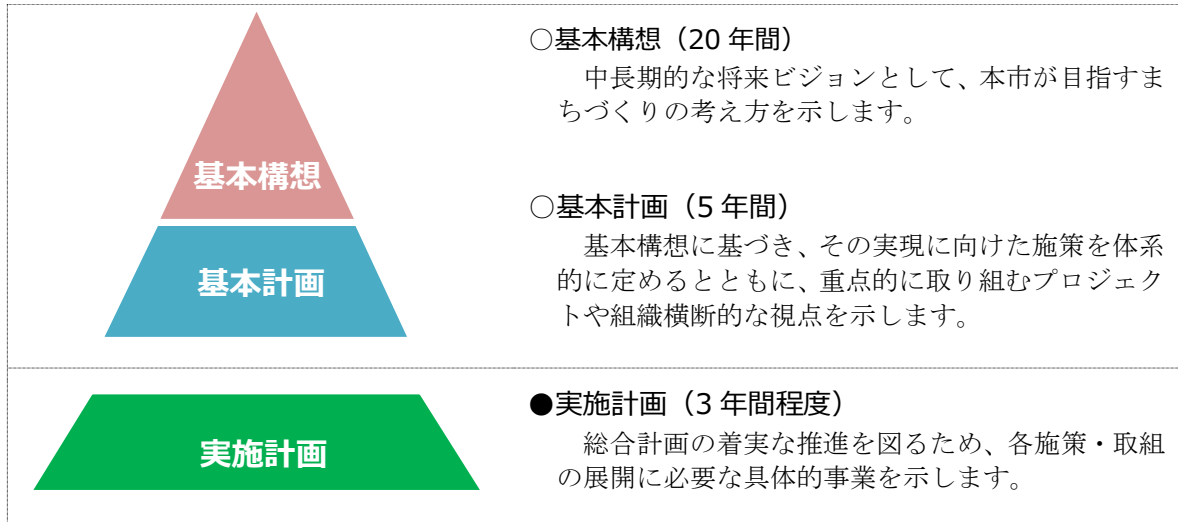
総合計画 策定にあたって（仮称）

1 総合計画策定の趣旨

- 本市は、都心から 40 km 圏内の千葉県北部に位置し、県都千葉市に隣接する地理的優位性のもと、首都圏における緑豊かな住宅都市として、都市基盤の充実とともに人口が増加し、近年は特に子育て世代から選ばれ、発展を続けています。
- まちづくりにおける最上位の計画としては、平成 26 年 3 月に「人 みどり 子育て 選ばれる安心快適都市 四街道」を将来都市像として掲げた「四街道市総合計画」を策定し、その実現に向け、諸施策を積極的に進めてきました。
- 計画の策定から 10 年が経過し、日本全体では引き続き人口が減少している中で、本市は人口増加が続いている全国でも数少ない自治体のひとつとなっています。しかし、将来的に見込まれる人口減少や人口構成の不均衡をはじめ、大規模な自然災害や新型コロナウイルス感染症など市民生活に深刻な影響を与える事態の発生のほか、脱炭素社会やデジタル社会の実現に向けた取組の加速、国連サミットにおける持続可能な開発目標（SDGs）の採択など、本市を取り巻く環境は大きく変化しています。
- このように社会環境が変化する中であっても、本市の地域資源である人・自然・歴史を大切にしながら、いつまでも住み続けられる、だれもが住み良い四街道に向けたまちづくりを進める必要があります。これまでのまちづくりの基盤を活かしながら、本市の特徴である緑と都市が調和した、日常生活に便利で、子育てしやすい、住宅都市としての魅力をさらに高め、未来を担う子どもたちへとふるさと四街道をつないでいくため、新たな総合計画を策定します。
- 新たな総合計画は、市政における最上位の計画として、まちづくりの考え方を示すとともに、その実現に向けた基本目標や施策を体系的に整理するほか、地方創生の実現を図る戦略などの個別計画とも整合性を図り、推進する計画とします。

2 総合計画の構成と期間

- 本計画は、「基本構想」・「基本計画」で構成します。また、計画に基づく具体的事業を「実施計画」で示します。



総合計画 基本構想骨子（案）

1 幸せつなぐ 未来への道しるべ

～ Yotsukaido Happy Road ～

四街道市の地名は、四街道十字路が東西南北の4つの街道につながる交通の要衝だったことに由来し、十字路の傍らには地名発祥の道標石塔がたたずんでいます。

今、私たちは、これまで先人が創りあげてきた歴史や文化を継承しながら、“四街道らしさ”をさらに磨き上げ、持続可能なまちづくりを進めるため、この十字路に新たな『幸せつなぐ 未来への道しるべ』を定めました。

『幸せつなぐ 未来への道しるべ』とは、子どもや若者をはじめ、現役世代や高齢者など、さまざまな年代や立場からみたそれぞれが想う幸せな未来へと導くための4つのまちづくりの道を示すものです。

本市は、人にやさしいほっとするまち、緑豊かな自然あふれるまち、子育てしやすいまち、みんなが主役のまちなど、さまざまな魅力であふれています。それぞれの今ある好きなまち、今ある幸せを大切にしたいという想いを、交差する未来への道の中心に掲げ、いつまでも住み続けたい、みんなが住んでみたい笑顔あふれるまちに向け、『幸せつなぐ 未来への道しるべ ～ Yotsukaido Happy Road ～』を次のとおり設定し、未来に向けたまちづくりを進めます。

幸せつなぐ 未来への道しるべ

－ Yotsukaido Happy Road －



- 未来を応援する道

社会経済情勢が大きく変化する中でも、子どもたちが将来の夢や希望を持つ、若者が夢の実現に向けて努力する、だれもが未来を切り拓くために挑戦する、そんな人を支えられる四街道であることが大切です。

未来を見据え、次代の主役たちが躍動する土台を整えることで、いつまでも安心して住み続けられる安全で持続可能なまちに向け、未来を応援するまちづくりを進めます。

- ふるさとを誇れる道

緑と調和する日常生活に便利な住宅都市として発展してきた本市にとって、住んでみたい、住み続けたいと思える四街道の魅力づくりが大切です。

地域資源である人・自然・歴史の魅力がさらに高まることで、子どもから高齢者まで、さまざまな人がそれぞれの魅力を感じられるまちに向け、ふるさとを誇れるまちづくりを進めます。

- 子どもがまんなかの道

今を創り、未来を支えていくためには、現役世代が安心して生活できる環境のもとで活躍しながら、未来を担う子どもたちが健やかに育つ、共に輝く四街道であることが大切です。

子どもの目線に立った子育てを地域みんなで支えることで、すべての子どもと大人たちが楽しみながら自分の可能性を広げていけるまちに向け、子どもがまんなかのまちづくりを進めます。

- 人によりやさしい道

子どもも高齢者も、障がいのある人もない人も、さまざまな人が暮らす本市では、だれにとっても住みやすく、活躍できる四街道であることが大切です。

だれもが快適に過ごせる環境のもと、多様な地域活動やまちづくりに関わりながら、いつまでも健康で生きがいをもって元気に暮らせるまちに向け、人によりやさしいまちづくりを進めます。

2 土地利用の考え方

本市は、昭和 40 年代以降、首都圏のベッドタウンとして急速に人口が増加し、豊かな自然環境に恵まれた住宅都市として発展してきました。

しかしながら、将来的な人口減少が見込まれる中で、今後、土地の需要も減少することが想定され、適切な土地利用の重要性が高まっています。

未来に向けた市全体の持続的発展のためには、市民生活や社会経済活動の重要な基盤である「土地」について、長期的な展望を踏まえながら、計画的な利用を図る必要があります。

そのため、幸せつなぐ未来へのまちづくりとして、さらなる地域経済の活性化と居住環境の向上を図る土地利用により、緑と調和した住宅都市としての魅力をさらに高めるとともに、持続可能な都市の構築を図ります。

また、近年、首都直下地震等の大地震や気候変動による台風の大型化・暴風雨など、多岐にわたる大規模自然災害の発生が懸念されており、あらゆる分野における強靱化を推進し、自然災害に強い、安全・安心な都市を築きます。

《都市形成の視点》

(1) 地域経済が活発なにぎわいあふれる都市

本市の未来へと続く持続的な発展のため、地域の特性に応じた魅力の向上を図るとともに、日常生活に必要な商業・業務機能の誘導などのほか、幹線道路の整備や各市街地間のアクセス強化に努め、地域の活性と交流を促進することで、地域経済が活発なにぎわいあふれる、コンパクトな都市をめざします。

(2) 緑と調和する心やすらぐ都市

本市は、豊かな自然に囲まれた住宅都市として発展してきたところです。今後も、本市の良好な居住環境の維持・向上に努め、緑と調和する街並みの形成や豊かな自然の適切な保全と活用を図るほか、すべての人にやさしいまちづくりを進めることで、緑と調和する心やすらぐ、魅力的な都市をめざします。

《都市構造の方向性》

(1) 市街化区域

本市の持続的発展に向け、地域の特性に応じた良好な居住環境の維持・向上をはじめ、日常生活に必要な商業・業務機能や子育て・福祉・医療機能の誘導のほか、低未利用地の有効活用を促進するとともに、駅や市街地間の交通アクセスの強化に努めるなど、各市街地の活性化と交流促進を図ることで市全体の機能向上につなげます。

また、だれもが快適に過ごせる市街地の実現に向け、緑と都市が調和する都市景観の形成やすべての人が利用しやすい都市環境の構築を図ります。

① 四街道駅周辺地域

四街道駅周辺地域は、本市における中心的な地域であり、商業・業務機能をはじめ、さまざまな行政サービス機能のほか子育て・福祉・医療・教育・文化機能など、都市に求められる諸機能を有し、都市の発展の核となる地域です。

本地域は、今後も本市の発展を主導する重要な地域であることから、地域の魅力向上に向けた土地の有効活用を促進することにより、多様な機能との相乗効果を創出し、さらなる発展をめざします。

② 物井駅周辺地域

物井駅周辺地域は、土地区画整理事業の完了に伴い、居住環境が向上するとともに、商業・業務機能の強化が図られたことで、周辺市街地等の核として、人口増加が進む活力にあふれる地域です。

本地域は、現在の都市機能の維持・向上を図るため、商業・業務機能や子育て・福祉・医療機能などの誘導のほか、周辺市街地等の活性化につなげるため、地域間の交通アクセス強化や交流促進を図り、相乗的な機能向上に努めます。

③ 特定地域

昭和40年代から50年代に整備された大型住宅団地では、人口減少に加え、人口構成の固定化や住民の高齢化が進行している地域などもあり、地域活力の維持が課題となっています。

特に高齢化の著しいこれら住宅団地などにおいては、住居機能の維持を図るため、地域住民をはじめとする多様な主体による地域づくりを積極的に支援することで、地域の魅力を磨き上げ、空き家・空き店舗の有効活用や移動支援、地域間交流を促進し、地域活力の維持・向上、さらには人口流入を図り、市全体の活性化につなげます。

(2) 市街化調整区域

将来的な人口減少等を見据えたコンパクトな都市の実現に向けて、新たな市街地形成は抑制する一方、既存集落地における道路等の生活基盤の維持などに努めます。

また、交通等の利便性の高い地域において、新たな都市機能の整備や地域整備の要請が高まり、都市的利用を図る必要性が生じた場合は、地域の特性に応じた土地利用を推進します。

(3) 交通体系

道路網に関しては、各市街地間の結節性を高めて活性化を図るほか、通過交通の分散による渋滞解消や千葉県の緊急輸送道路との効果的な連携・整合を図り、災害時の交通アクセスを強化することを重要な視点として、都市計画道路の効果的な整備を進めます。

また、広域的な幹線道路である国道51号の沿道地域や国道51号と主要な都市計画道路が接続するたかおの杜周辺地域では、道路整備の状況を勘案しながら、その交通利便性の高さを活かした流通機能などの立地を促します。

市内を横断するJR線や市内バス交通については、他都市との交流や市民生活を支える重要な機能を有していることから、各公共交通の利便性の向上に向け、一層の充実を図ります。

(4) 緑地空間

本市の財産と言える豊かな緑は、農業の生産基盤としてはもとより、良好な都市景観や都市防災機能、さらにはゼロカーボンシティの実現や地球温暖化の防止に寄与するものとして、重要な役割を果たしています。

今後も良好でまとまりのある既存の樹林地・農地等の緑の保全をはじめ、観光や交流の場としての活用のほか、自然環境を活かした新たな緑の拠点整備を図るとともに、これらの緑と市街地の緑地空間等を有機的に結ぶ緑のネットワークの一層の充実により、都市の緑地空間の効果的な形成を図ります。

新たな四街道市総合計画 課題マップ(案)

1. 全国的な変化

(1) 社会経済情勢

①人口減少と少子高齢化の進行

- ・我が国の人口は、平成22年(128,057千人)から令和2年(126,146千人)の10年間で約1.5%減少しており、老年人口割合は令和2年で28.7%と、世界で最も高い水準となっている
- ・国立社会保障・人口問題研究所による人口推計(平成29年)では令和42年(92,840千人)までの40年間でさらに人口が約25%減少する見込みとなっている

②高まる安全、安心への意識

- ・近年、各地で大規模な自然災害が相次いでいる
- ・刑法犯認知件数は減少しているものの、手口の巧妙化や多様化が進んでいる

③持続可能な社会づくりの進展

- ・平成27年に国連サミットで「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されたほか、COP21では、「パリ協定」が採択され、世界が脱炭素社会に向けて大きく舵を切るなど、持続可能な社会づくりが一層重要となってきている

(2) 広域計画<国>:デジタル田園都市国家構想

国は、令和4年にまち・ひと・しごと創生総合戦略を改訂し、デジタル田園都市国家構想総合戦略を策定

取組方針(デジタルの力を活用した地方の社会課題解決)

- 地方に仕事をつくる
- 人の流れをつくる
- 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 魅力的な地域をつくる
- ・デジタル実装の基礎条件整備

④デジタル技術の実装

- ・デジタル技術が実証の段階から実装の段階へと移行しつつあり、デジタルの力を活用した地方の社会課題解決と魅力の向上が期待されている

⑤不確実性の高い経済情勢

- ・米中貿易摩擦や新型コロナウイルス感染症の影響に加え、ロシアによるウクライナ侵攻に伴う物流の混乱や原材料価格の高騰など、経済情勢の不確実性はますます高まっている

⑥新たな日常の構築

- ・外国人人口の増加に加え、国籍・地域の多様化が進む中、多様性と包摂性のある社会を実現するため、多文化共生の社会づくりが求められている
- ・新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、生命と健康が脅かされたことから、感染リスクを引き下げながら、経済社会活動の継続を可能とする「新たな日常」の実現が図られている

(3) 広域計画<千葉県>:千葉県総合計画

基本理念
～千葉の未来を切り開く～
「まち」「海・緑」「ひと」がきらめく千葉の実現

基本目標

- I 危機管理体制の構築と安全の確保
- II 千葉経済圏の確立と社会資本の整備
- III 未来を支える医療・福祉の充実
- IV 子どもの可能性を広げる千葉の確立
- V 誰もがその人らしく生きる・分かり合える社会の実現
- VI 独自の自然・文化を生かした魅力ある千葉の創造

2. 市の状況

(1) 人口推移・動態

①人口推移・人口構成:人口増加が継続

- (国勢調査H22:86,726人→H27:89,245人→R2:93,576人)
- ・人口増加は、子育て世代の転入が継続していることが主要要因
- ・千葉県や全国と比較すると、年少人口や老年人口割合は高い一方、生産年齢人口割合は低くなっている
- ・将来人口推計(人口ビジョン)では、令和12年に人口ピークを迎えるほか、老年人口割合は令和22年以降にさらなる増加が予測されている

②婚姻件数:コロナ禍で大きく減少(H23:409件→R2:306件)

- ・千葉県や全国と比較すると、有配偶率は高いものの、婚姻率は低く、さらに有配偶率、婚姻率とも減少傾向にある

(2) 土地利用

①地域における人口構成等:地域によって異なる人口構成等

- ・昭和40～50年代に開発された住宅団地(千代田、旭ヶ丘、みそら)などは、転入者が少なく、人口構成が固定化しており、老年人口割合が4割以上、年少人口割合が1割以下と、少子高齢化の傾向が強く進行
- ・近年開発された住宅団地(めいわ、もねの里)などは、転入者が多く、老年人口割合2割以下、年少人口割合2割以上と、若い世代が多い

②土地利用:宅地が増加する一方、田、畑、山林などが減少

- ・近年の住宅供給は、市街化区域内の住宅団地(めいわ、もねの里)以外にも、大日、内黒田、栗山などの市街化調整区域における供給が多くなっているが、新たな大規模開発の予定はない
- ・市民一人当たりの公園整備面積:横ばい(H28:7.2㎡/人→R3:7.1㎡/人)
- ・市街化調整区域(特に大日、鹿放ヶ丘)において、農地や小規模住宅団地、資材置き場等の土地利用が混在している

(2)四街道市の「みらい」

○長期的に目指すまちの姿 <<市民意識調査R3.10>>

- ・「子育てしやすいまち」や「福祉のまち」、「防災・防犯体制の整ったまち」、「良好な住環境のまち」

○これからの四街道市<<若者、子育て世帯アンケートR4.8>>

- ・若者、子育て世帯とも、「子育て・教育」や「防災・防犯」、「健康」の充実が特に期待されている

○わたしたちの未来を考えよう <<よびとーくR4.8>>

- ・さまざまな立場からいろいろな未来(子育て:子どもが真ん中のまち、教育:世界とつながる子どもたちを育てられるまち、文化:芸能と文化の香り豊かなまち、住環境:歩きやすいまち)

○みんなの〇〇なまちにしたい! <<ポスターセッションR4.11>>

- ・「子どもに関するまちや「やさしい」、「楽しい」まちにしたい

<<よびくる会議R4.11>>

○めざすまちの姿(分野別提言)

- ・「人と人がつながる、幸せな、豊かなまち」、「夢があふれる、夢をつくる、住み良いまち」、「すべての人に寄り添う、誰一人取り残されないまち」、「若い世代が子どもを産みやすく育てやすいまち」、「「今ある幸せ」つながって共有できるまち」、「子どもと高齢者に優しい、住み続けたいと思えるまち」
- ・めざすまちに向けては、「魅力の創出や発信」、「市民・地域活動、交流の場づくり」、「企業誘致、産業振興」、「安全・安心、快適なまち」などに関する取組が必要

3. 市民から見た四街道市

(1) 四街道市の「いま」

<<市民意識調査R3.10>>

(住み心地)	H27	R2
①約8割が、四街道市は『住み良い』	76.1%	79.0%
②約8割が、四街道市に『住み続けたい』	76.3%	77.3%
③7割台半ばが、四街道市を『好き』	73.4%	74.7%

(魅力)	(課題)
④「日常生活(買い物など)」や「自然環境」が魅力	⑥「公共交通」や「道路などのインフラ」、「医療や福祉サービス」が課題
⑤「生活基盤」や「消防・救急」、「住環境」の満足度が高い	⑦「道路・交通」や「市街地形成」は不満度が高い

(転入)
⑧転入のきっかけは、主に「同棲・結婚・出産」や「新しい住宅」のため
⑨転入の決め手は、主に「手ごろな価格の住宅」や「通勤等の利便性」

(今後の重要度)
⑩「高齢者支援」や「防災・減災」、「消防・救急」、「道路・交通」の重要度が高い

<<若者、子育て世代アンケートR4.8>> (魅力)	(課題)
⑪「イベント(ふるさとまつりや産業まつり等)」や「子育て施策」、「医療・福祉」が魅力	⑫若者・子育て世帯とも「魅力的な取組や活動がない」が3割前後であったことや、若者の3割以上でUターン意向がない点が課題

(結婚・子育て)
⑬若者は、結婚しやすい環境のため、「経済的支援」を望んでいる
・若者の結婚希望は7割以上
⑭子育て世帯は、子育てしやすいまちへ向けて、「経済的支援」や「教育」、「保育所等の預け先」に関する取組を期待
・理想とする子どもの人数は、若者が平均1.9人、子育て世帯が平均2.5人

<<よびくる会議R4.11>> (魅力)	(課題)
⑮「3:健康と福祉」、「4:質の高い教育」、「11:住み続けられるまちづくり」への関心が高い	⑯「住環境」(自然が豊か、住環境が整っている)や「道路・交通」(通勤、通学に便利)、「子ども・子育て」(教育設備が整っている)が魅力
	⑰「住環境」(交流の場が少ない)や「道路・交通」、「産業・就労支援」が課題

③自然動態:自然減で推移

- ・出生数は約700人で横ばいだが、死亡数が増加傾向にあり、平成24年以降は自然減で推移(自然増減H23:19人→R2:-155人)
- ・合計特殊出生率は令和2年1.50(県内3位)と、千葉県や全国の平均を上回るものの、人口減少に歯止めのかかる水準には達していない

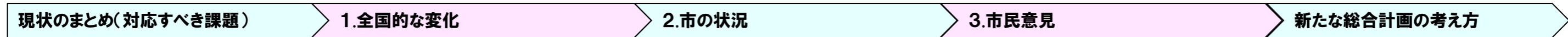
④社会動態:社会増を維持しているが、20代の転出が多い

- ・転入者の特徴:年齢は子育て世代(20代、30代)とその子ども(10代未満)が多く、転入元は近隣市(千葉市、佐倉市等)が多い
- ・転出者の特徴:年齢は20代が多く、転出先は千葉市や東京都が多い

(3) 分野

- ①保育所定員:10年前の2倍以上(H23:752人→R3:1,588人)
- ・保育所待機児童数:令和3年に0人の一方、保育需要の増加が続いている
- ②児童生徒数は増加傾向の一方、学校別では規模の不均衡が拡大傾向(児童H28:5,002人→R2:5,193人、生徒H28:2,368人→R2:2,398人)
- ③要支援・要介護認定者数:高齢化のさらなる進行とともに10年前の約1.5倍に増加(H23:2,466人→R2:3,968人)
- ④身体障害者手帳の交付者数は10年前と同程度の一方、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付者数は10年前の1.5倍以上に増加
- ⑤国民健康保険特定健康診査の受診率:コロナ禍で減少(H28:35.8%→R1:33.1%→R2:16.8%)
- ⑥新型コロナウイルス感染症:令和2年以降多数の感染者が発生
- ・令和2年以降、感染拡大と縮小を繰り返し、定常的な感染対策と新たな日常の構築が求められている
- ⑦自然災害:台風や大雨による道路冠水や浸水被害が発生
- ・令和元年台風15号、19号及び大雨による一連の自然災害により人的被害、物的被害が発生
- ⑧刑法犯認知件数(H23:1,268件→R2:455件)、交通事故発生件数(H23:297件→R2:183件)とも減少傾向
- ⑨建築確認申請数:減少傾向(H28:695件→R2:602件)
- ・一戸建て空き家率:減少傾向だが、将来的な人口減少、高齢化のさらなる進展に伴う空き家の増加懸念(H25:5.4%→H30:3.9%)
- ⑩ごみ排出量:一人当たり排出量は横ばい(H28:826g/人日→R2:822g/人日)
- ・ゼロカーボンシティ宣言(R2.7)
- ⑪観光入込客数:増加傾向だったが、コロナ禍で減少(H23:3.2万人→R1:11.2万人→R2:5.7万人)
- ⑫販売農家数:減少傾向(H22:341戸→R2:226戸)
- ⑬事業所数:減少傾向(H26:2,545所→R1:2,451所)
- ・工業:事業所数は減少傾向(H23:62事業所→R2:42事業所)の一方、従業者数は横ばい(H23:1,107人→R2:1,074人)
- ・卸小売業:年間商品販売額は増加傾向(H24:909.7億円→H28:1,151.3億円)
- ⑭公共交通利用者数:横ばいだったが、コロナ禍の令和2年は減少(一部バス路線や市内循環バス「ヨッピー」の運行経費の補助を継続実施)
- ⑮市の認知率:横ばい(H23:67.0%→R1:67.2%)であり、東京都民の認知率は50%未満にとどまる
- ・ふるさと寄附:増加傾向(H28:75件1,510千円→R2:574件18,957千円)
- ⑯市の財政力:財政力指数は横ばい(H28:0.815→R2:0.815)
- ・市税総額は増加傾向(H28:110.1億円→R2:117.3億円)だが、コロナ禍や将来的な人口減少に伴う、市税の減収懸念
- ⑰公共施設等:総合管理の必要性
- ・多くの施設が昭和50年代から平成の初めにかけて整備・建設され、約6割が築30年を超えており、長期的視点に基づく公共施設の再配置のほか、老朽化した都市基盤の計画的更新や長寿命化が必要

新たな総合計画 課題マップ



社会が**変化**する中であっても

四街道市における、様々な**課題**をとらえ

みんなの『**今**』を大切に
『**未来**』に向けて

幸せつなぐ 未来への道するべ
-Yotsukaido Happy Road-

現状のまとめ(対応すべき課題)	1.全国的な変化	2.市の状況	3.市民意見	新たな総合計画の考え方
持続可能な社会形成 夢の実現へ向けた環境整備 環境負荷への配慮 強固な都市基盤の整備 地域活動の推進	(1) ① ③ ④ ⑤ ⑥ (1) ① ③ ④ ⑤ ⑥ (1) ② ③ (1) ① ② ③ (1) ① ③ ④ ⑥	(2) ① ② ・ (3) ⑨ ⑩ ⑫ ⑬ ⑭ ⑯ ⑰ (1) ① ② ③ ④ ・ (2) ② ・ (3) ① ② ⑨ ⑬ (2) ② ・ (3) ⑦ ⑩ ⑫ ⑰ (1) ① ・ (2) ② ・ (3) ⑦ ⑨ ⑯ ⑰ (1) ① ・ (2) ① ④ ・ (3) ③ ④ ⑥ ⑰	(1) ② ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑮ ⑯ ⑰ (1) ② ③ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ (1) ① ② ④ ⑤ ⑮ ⑯ ⑰ (1) ① ② ⑤ ⑥ ⑦ ⑨ ⑩ ⑮ ⑯ ⑰ (1) ① ② ③ ⑧ ⑪ ⑫ ⑮ ⑰	未来を応援する道 社会経済情勢が大きく変化する中でも、子どもたちが将来の夢や希望を持つ、若者が夢の実現に向けて努力する、だれもが未来を切り拓くために挑戦する、そんな人を支えられる四街道であることが大切です。未来を見据え、次代の主役たちが躍動する土台を整えることで、いつまでも安心して住み続けられる安全で持続可能なまちに向け、未来を応援するまちづくりを進めます。
地域の魅力創出 定住・流入の促進 良好な自然環境の維持・形成 地域間交流の促進 地域産業の充実	(1) ① ④ ⑤ ⑥ (1) ① ② ③ ④ (1) ② ③ (1) ① ② ③ ⑤ ⑥ (1) ① ③ ④ ⑤ ⑥	(1) ④ ・ (2) ① ② ・ (3) ⑪ ⑮ ⑰ (1) ① ② ③ ④ ・ (2) ① ・ (3) ⑨ ⑬ ⑮ (2) ② ・ (3) ⑦ ⑩ ⑫ ⑮ ⑰ (1) ④ ・ (2) ① ・ (3) ② ③ ④ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰ (1) ① ④ ・ (2) ① ・ (3) ⑥ ⑪ ⑫ ⑬ ⑮ ⑯	(1) ① ② ③ ④ ⑤ ⑧ ⑨ ⑮ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ (1) ① ② ③ ④ ⑥ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ (1) ① ② ③ ④ ⑮ ⑱ (1) ① ② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑨ ⑩ ⑮ ⑱ ㉒ (1) ② ③ ④ ⑥ ⑨ ⑮ ㉒	ふるさとを誇れる道 緑と調和する日常生活に便利な住宅都市として発展してきた本市にとって、住んでみたい、住み続けたいと思える四街道の魅力づくりが大切です。地域資源である人・自然・歴史の魅力がさらに高まることで、子どもから高齢者まで、さまざまな人がそれぞれの魅力を感じられるまちに向け、ふるさとを誇れるまちづくりを進めます。
少子化への対応 安心して暮らせる社会形成 子育て環境の充実 魅力ある教育の推進 地域経済の活性化	(1) ① ③ ④ ⑤ ⑥ (1) ② ③ ④ ⑥ (1) ① ② ④ ⑤ ⑥ (1) ① ④ ⑥ (1) ① ③ ④ ⑤ ⑥	(1) ① ② ③ ④ ・ (2) ① ・ (3) ① ② ⑨ ⑬ (1) ① ・ (2) ① ② ・ (3) ⑥ ⑦ ⑧ ⑰ (1) ② ③ ・ (2) ① ・ (3) ① ② ⑨ ⑬ ⑭ ⑰ (1) ② ③ ・ (2) ① ・ (3) ① ② ④ ⑫ ⑰ (1) ① ④ ・ (2) ① ・ (3) ⑥ ⑪ ⑫ ⑬ ⑮ ⑯	(1) ① ② ④ ⑥ ⑧ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑯ ⑰ ⑱ (1) ① ② ③ ⑤ ⑥ ⑩ ⑮ ⑰ (1) ① ② ④ ⑤ ⑥ ⑪ ⑭ ⑮ ⑯ (1) ① ② ③ ⑪ ⑫ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ (1) ② ③ ④ ⑥ ⑨ ⑮ ⑱	子どもがまんなかの道 今を創り、未来を支えていくためには、現役世代が安心して生活できる環境のもとで活躍しながら、未来を担う子どもたちが健やかに育つ、共に輝く四街道であることが大切です。子どもの目線に立った子育てを地域みんなで支えることで、すべての子どもと大人たちが楽しみながら自分の可能性を広げていけるまちに向け、子どもがまんなかのまちづくりを進めます。
超高齢社会への対応 健康寿命の延伸 自然災害への備え 生きがいの創出 共生社会への対応	(1) ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ (1) ① ④ ⑥ (1) ② ③ ⑥ (1) ① ④ ⑥ (1) ① ③ ④ ⑤ ⑥	(1) ① ③ ・ (2) ① ・ (3) ③ ④ ⑤ ⑥ ⑬ ⑭ (1) ① ・ (2) ① ② ・ (3) ③ ④ ⑤ ⑥ ⑯ ⑰ (1) ① ・ (2) ① ② ・ (3) ⑥ ⑦ ⑧ ⑰ (1) ① ・ (2) ① ・ (3) ③ ④ ⑫ ⑬ ⑭ ⑰ (1) ① ② ・ (2) ② ・ (3) ③ ④ ⑦ ⑫ ⑬ ⑰	(1) ① ② ③ ④ ⑥ ⑩ ⑪ ⑮ ⑰ (1) ① ② ③ ⑥ ⑩ ⑪ ⑮ (1) ① ② ⑤ ⑥ ⑩ ⑮ (1) ① ② ③ ⑩ ⑮ ⑰ (1) ① ② ③ ⑥ ⑦ ⑪ ⑮	人によりそうやさしい道 子どもも高齢者も、障がいのある人もない人も、さまざまな人が暮らす本市では、だれにとっても住みやすく、活躍できる四街道であることが大切です。だれもが快適に過ごせる環境のもと、多様な地域活動やまちづくりに関わりながら、いつまでも健康で生きがいをもって元気に暮らせるまちに向け、人によりそうやさしいまちづくりを進めます。